

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102277		
法人名	特定非営利活動法人 さわやか福祉ネットワークぎふ		
事業所名	グループホーム千寿庵 万葉		
所在地	岐阜市加納村松町村松1丁目1番地の40 (電話) 058-276-1770		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年5月16日	評価確定日	平成19年7月3日

【情報提供票より】 (19年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 8 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	9 人	常勤 1 人, 非常勤 8 人, 常勤換算5.65人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	12,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (4月20日現在)

利用者人数	5名	男性	2名	女性	3名
要介護1	2名	要介護2			
要介護3	3名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 80.6歳	最低	70歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原内科医院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造平屋1戸建て住宅を改造したホームは、表通りの喧騒から一步入った裏通りの住宅街にあり、周りの家並みにすっかり溶け込んでいる。庭木の緑や日差しも穏やかな静かな空間である。静かな環境ではあるが都心に近く生活には何かと便利である。入居者定員5人のこじんまりしたホームであるが、同法人は別の地でグループホーム経営をしており、相互に情報交換やイベント交流を行っている。当ホームは法人代表者の自宅をホームとして利用しており、かつては施設長であった方が今は利用者になっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題である介護計画作成における家族意見の吸い上げ、責任者の協働、市町村との関わり、ホーム機能の地域への還元については今一步のレベルアップを期待したい。また、包丁等危険な物の保管は適切な場所へと改善された。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 評価報告書は玄関ホールに掲示され、自由に見られる環境にある。前向きに取り組み、既に解決済みのものも一部ある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 従来は広域で他のホームと共同で行われていたが今年度からは単独でホーム毎に行われることになった。具体的な案件の取組みや家族の出席などが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎日訪問される家族もあり、折々に意見を吸い上げるような努力がみられた。苦情に関しても、家族に外部の苦情相談制度を説明し、気軽に意見・要望等が出しやすいよう努めている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 前・現代表者が当地区住民であるだけに地区との交流はあり、入居者の希望もあって老人会・盆踊り・一斉掃除などにも参加している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5つの運営理念は玄関・台所に掲示され、理念の徹底が図られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	打合せや職場内研修の場などで折に触れ、認識を新たに、職員教育に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	元々が自宅改造型でホーム運営がスタートし、元代表者がそのまま入居者になっているということの流れからも、地域との交流は続いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の評価報告書が閲覧できるよう掲示されており、報告書の改善点は自らのサービスの質の向上に活用されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度までは広域で他のホームと一緒に行われており、利用者の状況報告、グループホームのケアや災害対策などが話し合われた。		今年度からはホーム単体ごとに行われることになり、具体的な案件の取り組みや家族の出席などが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人事務局が窓口になっているが、今後運営推進会議が単独開催に移行し、そうした機会接触を深めようとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度の請求書郵送時に、諸報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時や来訪時には苦情・要望などを聞くように努めている。		入居後の家族からの苦情・要望やホームからの対応等の詳細については、別途記録管理されるようなシステムづくりが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者と職員で年2回は食事会をしたりして、職員の声や業務課題等を把握し、離職にならない様努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営側の費用負担で外部研修などの機会は与えられている。	○	事故報告・ヒヤリハット等の書類は法人事務所で保管され、ホームの手元にはない。職員が日常的に確認チェックしたり、指導研修などに活用できる取り組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人経営の他のホームとの行事に参加したり、情報交換しあったり、事務局側が情報を仲介することもある。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居直後の1～2週間は格段の注意・見守りが行われ、その後の介護計画作りに活かされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と家族同様に生活している入居者がいる一方、居室主体の生活をしている入居者も居り、それぞれ好みの生活パターンが採られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声かけをして本人の意向・希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャー及び職員が本人・家族の意向を汲みながら作成されている。	○	ケア会議には施設長・職員はもとより家族も参画して、アセスメントとそれにもとづく介護計画の作成が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化にあたってはケアマネージャーに連絡し、随時介護計画が見直しされている。	○	介護計画の見直しにおいても、ケアマネージャー・施設長・職員・家族が参画して行われることが望ましい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	これまで、グループホームが培ってきた認知症ケアの対応を相談窓口の機能として地域に還元している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表者及びその家族が協力医院と親しく、その関係で月2回の往診と訪問看護を受けており、医療関係の体制は十分である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでは必要な状況ではなかったが、今後必要に応じて家族と話し合いを持つ意向である。住宅転用ホームである制約から車椅子の生活者の入居は無理である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には意識は徹底されており、よく配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・外出・喫茶店と入居者のペースが尊重され、入居者のその日の状態も見守りされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者5名中、2名は居室での摂食である。食事メニューは入居者希望を取り入れられている。そのため、栄養的配慮が二の次になっている。	○	入居者と職員と一緒に食事をする事が期待される。年に1～2度はカロリー計算もするとよい。また入居者に食事のアンケートをするときはイメージがわかりやすいように写真などを使ったメニューがあるとなお良い。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、昼間の時間帯であり、週6日の内、男性の日、女性の日と交互の入浴日となっている。しかし、本人希望も取り入れられ臨時追加の入浴も可能である。		風呂場の洗い場の高さに比べて浴槽の底が深く、現在の入居者では支障ないようであるが、状態変化に伴い介護者の作業が難しくなる事も予想される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯物たたみ・チラシ切りなど本人の状況に応じて支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど毎日喫茶店に行く人、買物、散歩とよく外出している。	○	入居者・職員の出入りはほとんど勝手口からであるが、玄関口を気楽に利用できる環境づくりが望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・玄関とも鍵は掛けられていない。入浴時や夜間は一時的に玄関戸は鍵がかけられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災緊急連絡体制などが決められ掲示もされている。スプリンクラーの代わりに消火器がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック・食事摂取については記録されており、水分補給は見守りされ、状態変化があれば介護記録に記録している。		水分補給についてもチェック表に所定欄を設定し、忘れないようにチェックされるとなお良い。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールは広く、日当り・風通しもよく、イスも置かれているが、ポータブルトイレ・紙オムツが目に触れる場所に置いてある。民家改造型の制約から、共用空間は居間・台所に集中している。	○	出入り口のみならず共用空間としても有意義なスペースと思われ、有効利用される環境づくりが期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ自分好みのものが持込まれたり飾られている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。